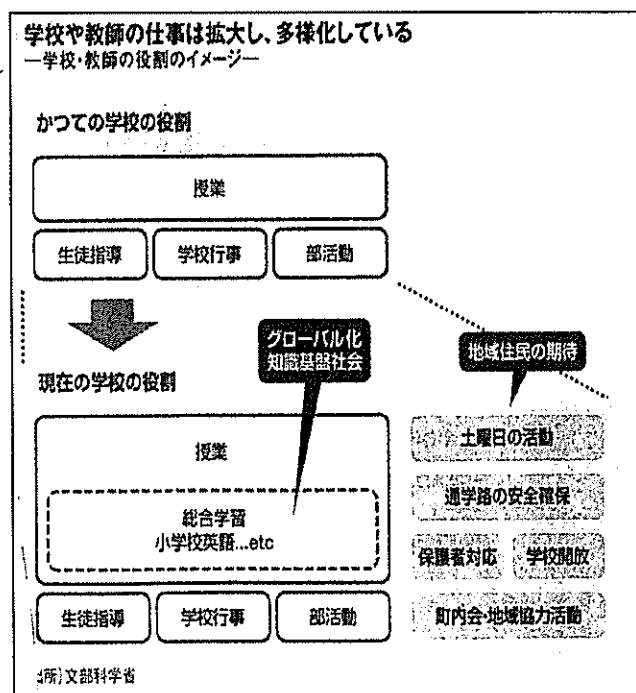
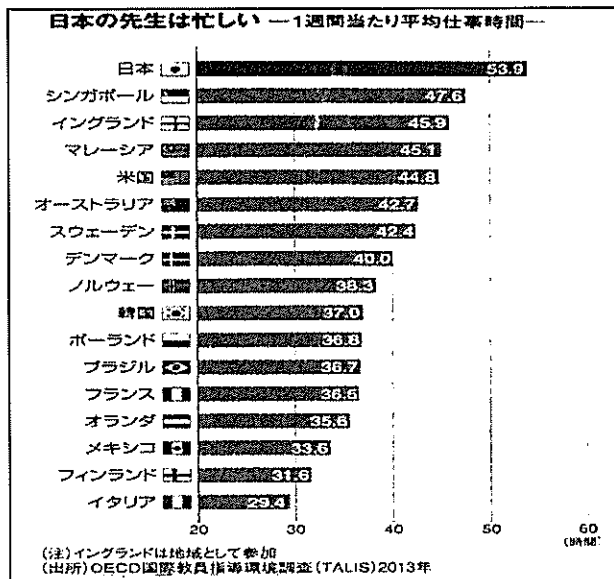
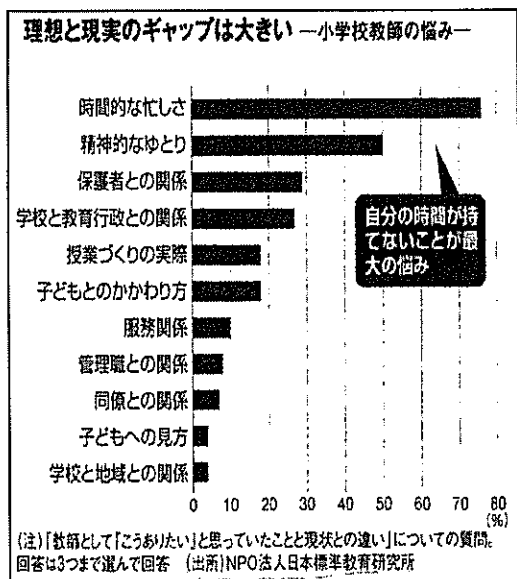


先生たちの基本データ

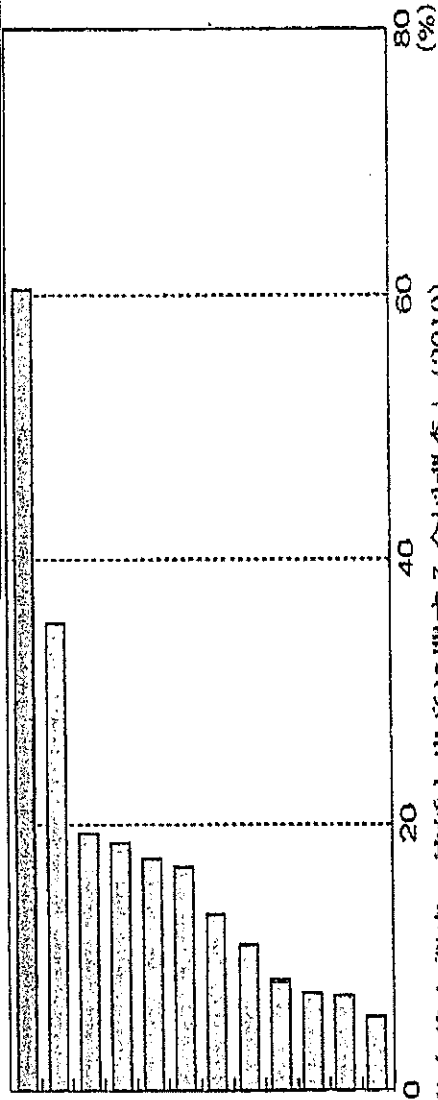


別紙3：公財政教育資質が低い日本

理想の子供数を持たない理由・子育てに係る経済的な負担

理想の子供数を持たない理由

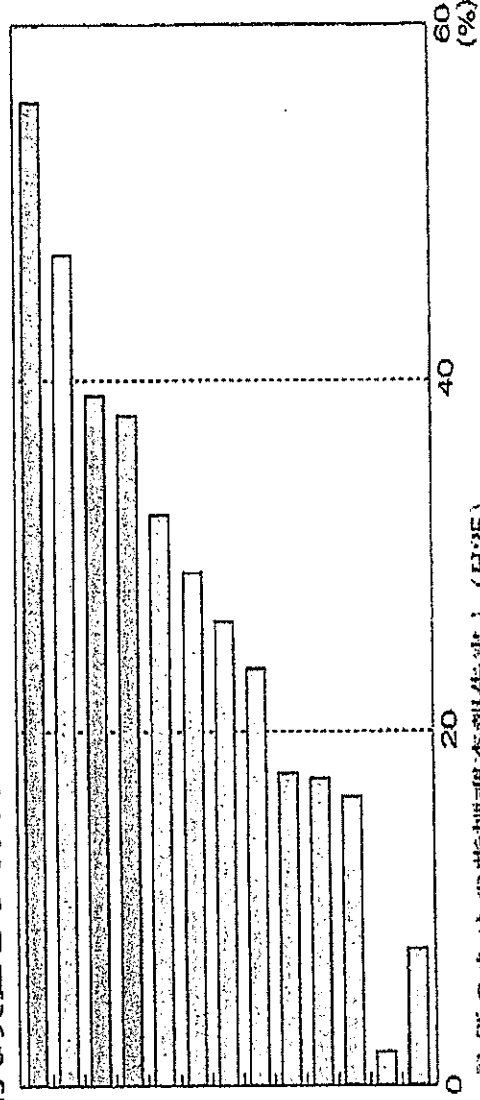
子育てや教育にお金がかかりすぎるから
 高齢で生むのはいやだから
 ほしいけれどもできないから
 健康上の理由から
 育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから
 自分の仕事（勤めや家事）に差し支えるから
 家が狭いから
 夫の家事・育児への協力が得られないから
 末子が夫の定年退職まで成人してほしいから
 夫が望まないから
 子どもがのびのび育つ社会環境ではないから
 自分や夫婦の生活を大事にしたいから



(出典) 国立社会保険・人口問題研究所「第14回出生・動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査」(2010)

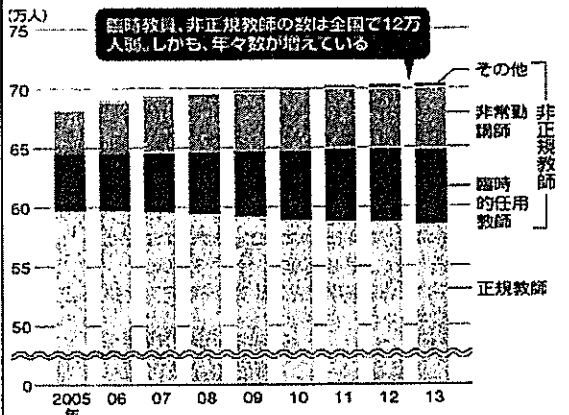
子育てにかかる経済的な負担として大きいと思われるもの

学校教育費 (大学・短大・専門学校など)
 学習塾など学校以外の教育費
 保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用
 学校教育費 (小学校・中学校・高等学校)
 食費
 学習塾以外の習い事の費用
 衣服費
 医療費
 レジャー、レクリエーション費
 住宅費
 通信費
 その他
 特になし



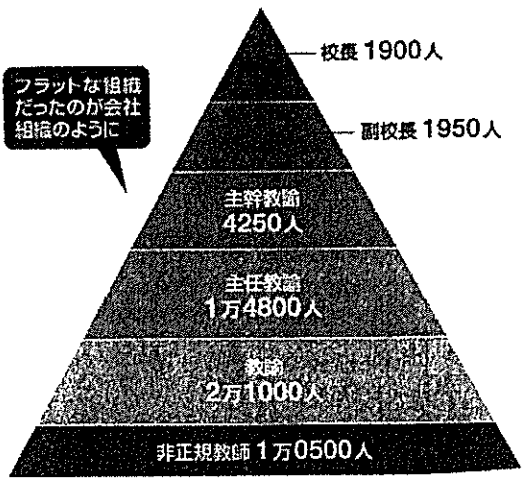
(出典) 内閣府「子ども・子育てビジョンに係る点検・評価のための指標調査報告書」(H25)

増える非正規教師 —公立小中学校の勤務形態別教師数—

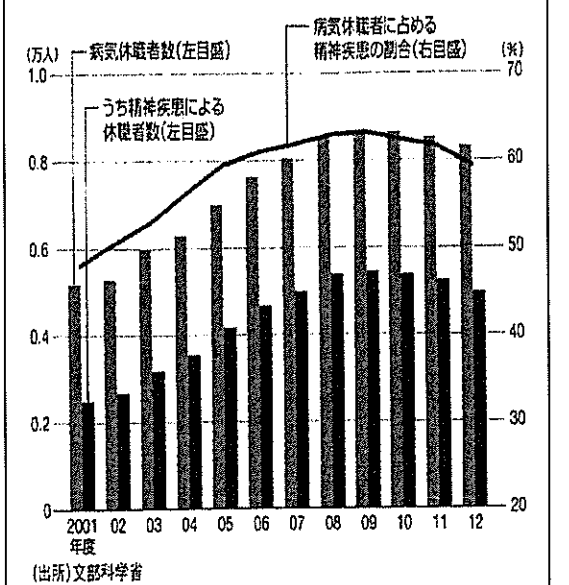


(注)各年とも5月1日時点。非常勤講師の数は、勤務時間による常勤換算はせず、5月1日の任用者をそれぞれ1人としてカウント
(出所)文部科学省

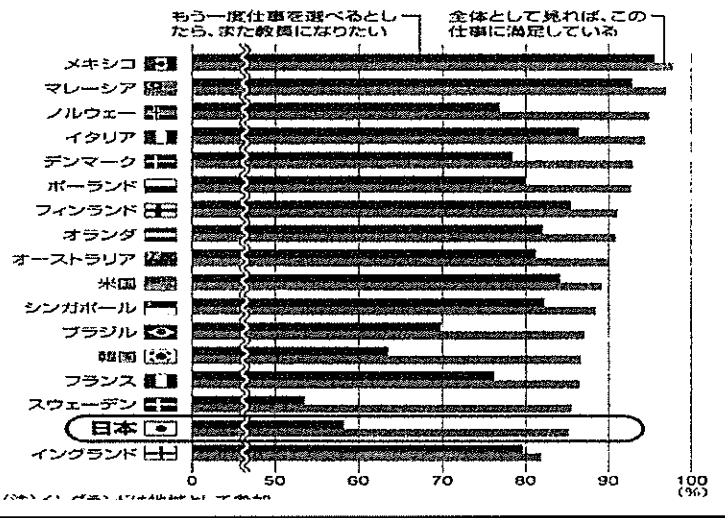
階層化する先生 —東京都の小中学校教師数—



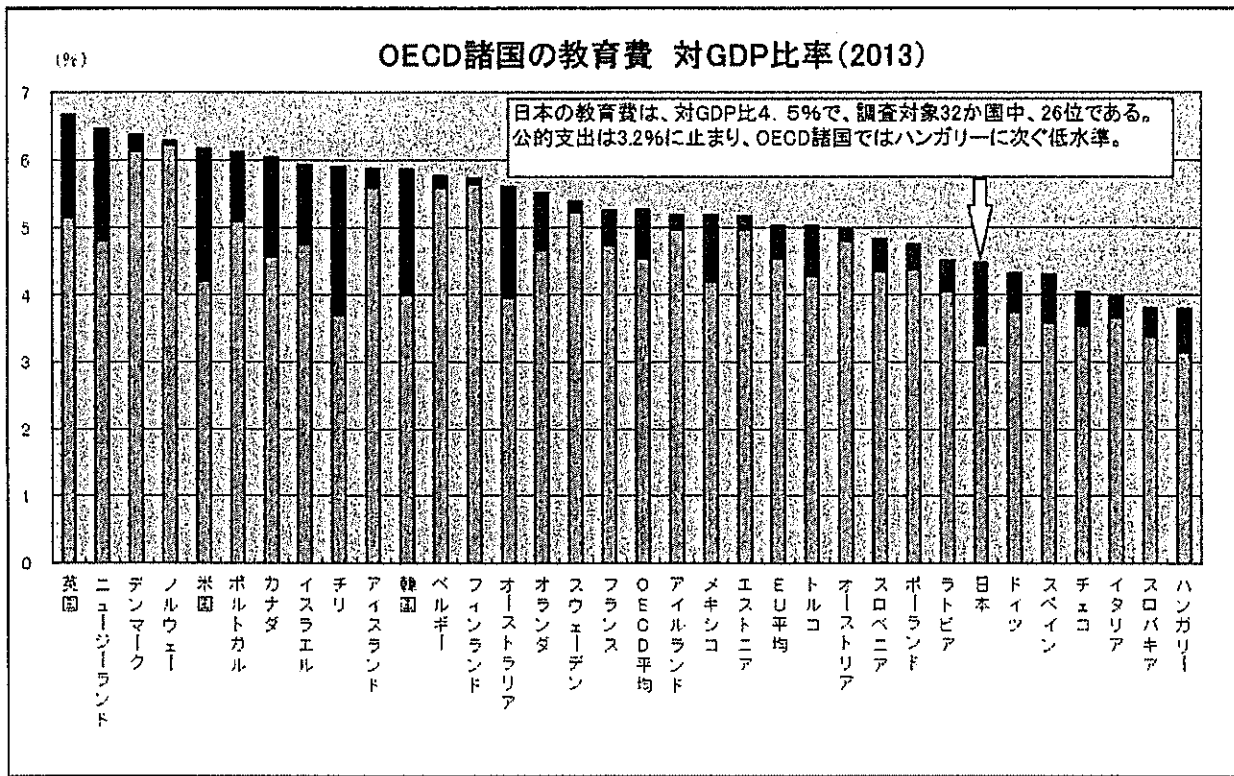
高止まりする教師の精神疾患



4 低い満足度、自信のない日本の先生 —TALIS 2013から—



38	教育費の対GDP比率 (2013)	日本は32か国中 26位	OECD図表で見る教育(2016) 上位3か国:英国、ニュージーランド、デンマーク
----	----------------------	-----------------	--

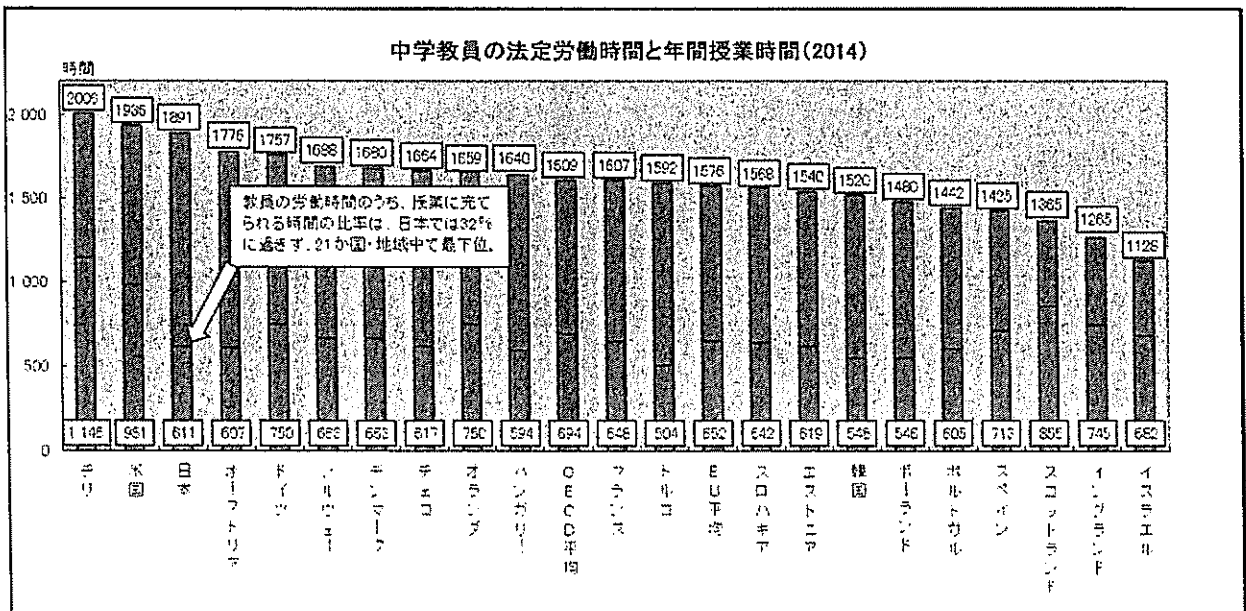
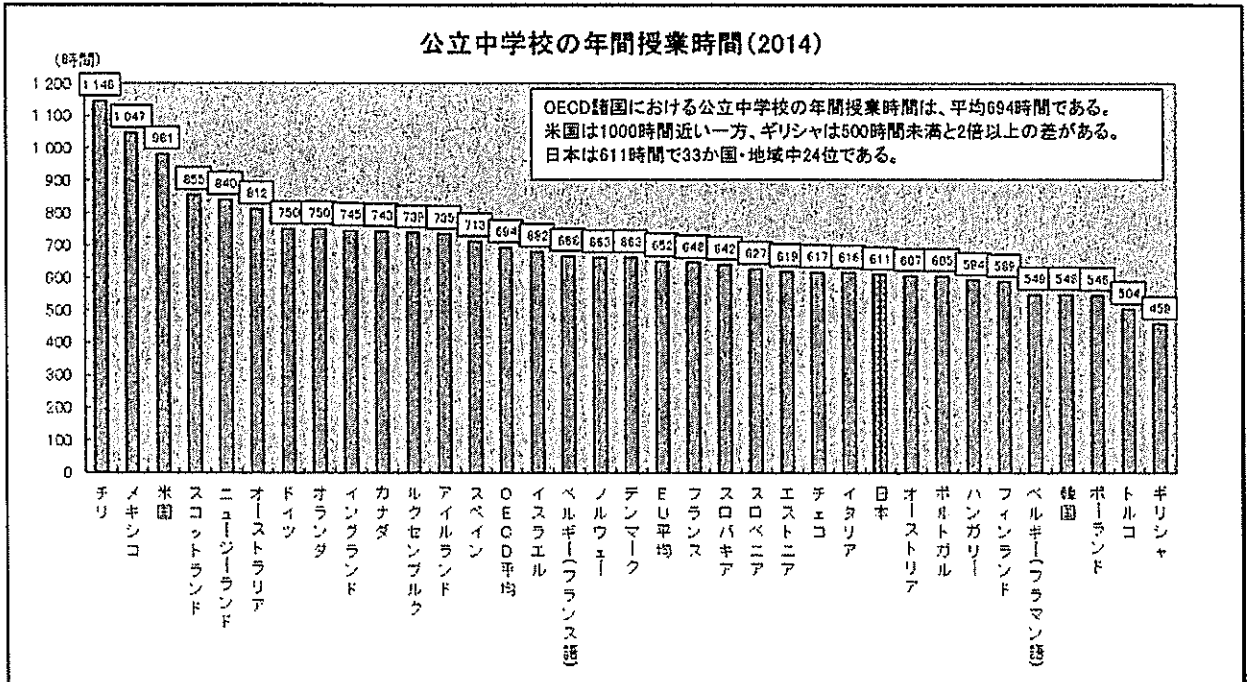


順位	国名	公的支出	私的負担	合計	順位	国名	公的支出	私的負担	合計
1	英国	5.2	1.5	6.7	17	OECD平均	4.5	0.7	5.2
2	ニュージーランド	4.8	1.7	6.5	18	アイルランド	5.0	0.2	5.2
3	デンマーク	6.1	0.2	6.4	19	メキシコ	4.2	1.0	5.2
4	ノルウェー	6.2	0.1	6.3	20	エストニア	5.0	0.2	5.2
5	米国	4.2	2.0	6.2	21	EU平均	4.5	0.5	5.0
6	ポルトガル	5.1	1.0	6.1	22	トルコ	4.3	0.7	5.0
7	カナダ	4.6	1.5	6.1	23	オーストリア	4.8	0.2	5.0
8	イスラエル	4.8	1.2	5.9	24	スロベニア	4.4	0.5	4.8
9	チリ	3.7	2.2	5.9	25	ポーランド	4.4	0.4	4.8
10	アイスランド	5.6	0.3	5.9	26	ラトビア	4.0	0.5	4.5
11	韓国	4.0	1.9	5.9	27	日本	3.2	1.2	4.5
12	ベルギー	5.6	0.2	5.8	28	ドイツ	3.7	0.6	4.3
13	フィンランド	5.6	0.1	5.7	29	スペイン	3.6	0.7	4.3
14	オーストラリア	3.9	1.7	5.6	30	チェコ	3.5	0.5	4.0
15	オランダ	4.7	0.9	5.5	31	イタリア	3.7	0.3	4.0
16	スウェーデン	5.2	0.2	5.4	32	スロバキア	3.4	0.4	3.8
16	フランス	4.7	0.5	5.3	32	ハンガリー	3.1	0.7	3.8

39 ①	公立中学校の年間授業時間(2014)	日本は33カ国中 24位	OECD図表で見る教育(2016) 上位3カ国:米国(1080時間)、メキシコ、ニュージーランド 下位3カ国:韓国、ハンガリー、ギリシャ
---------	--------------------	-----------------	--

OECD諸国の公立中学校の年間授業時間は平均で694時間である。日本は、2005年には505時間で31か国中最下位であったが、2014年は611時間で33か国・地域中24位である。

日本は、授業時間は短い一方で、教員の年間法定労働時間は最も長く、労働時間のうち授業に割く比率が最も低くなっている。



8. 中学校教諭の勤務状況

	平均	日本
1週間当たりの教員の勤務時間	38.3時間	53.9時間(34カ国中、最長)
部活動などの課外活動指導	2.1時間	7.7時間(平均の3倍超)
書類作成などの事務作業	2.9時間	5.5時間(平均のほぼ2倍)
授業時間	19.3時間	17.7時間(平均より短い)

もう一度仕事を選べるとしたら、また教員になりたい(%)		教職は社会的に高く評価されていると思う(%)	
メキシコ	95.5	マレーシア	83.8
マレーシア	92.8	シンガポール	67.6
フィンランド	85.3	韓国	66.5
シンガポール	82.1	フィンランド	58.6
イングランド(英国)	79.5	メキシコ	49.5
フランス	76.1	イングランド(英国)	35.4
ブラジル	69.7	日本	28.1
韓国	63.4	ブラジル	12.6
日本	58.1	スウェーデン	5.0
スウェーデン	53.4	フランス	1.9
参加国平均	77.6	参加国平均	30.9

「勉強にあまり関心を示さない生徒に動機付けをしている」と答えた先生の割合(%)

1位 マレーシア	95.2
2位 アブダビ (アラブ首長国連邦)	94.9
3位 ポルトガル	93.8
4位 ルーマニア	88.7
5位 ブラジル	87.6
⋮	⋮
33位 日本(最下位)	21.9
回答率が基準に達しなかった米国を除く	

OECD 国際教員指導環境調査

学校の学習環境と教員の勤務環境を国際的に調べ、教育政策に役立てることを目的にした調査。2008年に続き今回が2回目。今回はOECD加盟国を中心に34カ国・地域が参加した。1カ国・地域当たり中学校約200校を無作為に抽出し、各校から教員・校長約20人が、勤務状況や学級の環境への満足感といった内容の質問紙に1時間程度かけて回答した。